



炭焼き窯「北辰窯」

茨木市里山センター 森の学び舎

近年、茨木市の里山では放置森林が増え、管理が不十分な場所が多くなってきています。茨木市里山センター「森の学び舎」は、このような里山を整備・保全し、多様な活用ができることを目指す活動拠点です。

どのような活動が行われているのか、運営に当たっておられる「里山サポートネット・茨木」代表の八里さんにお話を伺いました。

設立の目的を教えてください。
また、どのようなことをされているのですか。

近年、里山は荒廃が進み治水能力などが低下しています。その森林を整備・保全して豊かにし、多様な生物を生息させ、環境保全に役立つようにすることを目的としてこのセンターが設立されました。運営にはいくつかのボランティア団体や自治会などで構成されている「里山サポートネット・茨木」が当たっています。

事業は大きく二つに分けられます。里山保全活動では、保全地域を拡大すること、間伐材の提供とその活用を指導すること、森林ボランティアを養成することなどです。里山センターでの活動は、地域の交流やイベントの開催、オリジナル商品の開発・販売などです。昨年行われたイベントでは、施設周辺の自然観察や間伐材などを利用したものづくりが行われました。しめ縄づくり、つるの花かご・リースづくり、竹とんぼや木工品なども作りました。また、炭を作る「北辰窯」が昨年完成し、今年の1月には、炭にする間伐材さがしから火入れ、炭出し、クラフトまで行う「炭焼き教室」を開催し、好評を得ました。



クヌギの炭・「菊炭」

茨木市里山センター 森の学び舎

利用時間 9:00~17:00
休所日 火曜日(火曜日が祝日の場合はその翌日)
12月29日~翌年の1月3日
※使用料など詳しいことは下記へお問い合わせください。
〒568-0097 茨木市大字泉原20-2
TEL・FAX 646-7531
ホームページ <http://www10.ocn.ne.jp/~ibasato/>



間伐材で作った数々の作品



さまざまな工具が揃った木工室

里山の保全活動や施設利用にはどのような方が参加されるのですか。

また、今後の目標などを教えてください。

この活動は茨木市のほか、大阪府や一般企業、NPO法人などの協力も得ています。また、広報『いばらき』などで参加を呼びかけた市内・市外の団体なども保全活動に協力していただいています。各種教室や季節のイベントには多くの市民が参加され楽しんでおられます。木工室は誰でもいつでも利用できるように準備をしています。

この周辺は自然に恵まれていて、四季折々の美しさが十分残っています。この自然の大切さを学びながら、間伐材を利用して工作をしたり炭を作ったりする楽しさは格別です。今後は、より多くの皆さんに来ていただけるようPRに努めるとともに、センターの裏山に自然観察コースなどを作って楽しんでいただくことも考えています。

次世代を担う子どもたちに、美しい里山を受け継いでもらえるようにがんばっていきたくと思っています。

かしの木園

茨木市立かしの木園は、知的障害者が通う授産施設です。昭和56年(1981年)、国際障害者年ができたことを記念して、翌年4月に障害者センターが開所し、そのなかにかしの木園が併設されました。開園して今年で27年目になるかしの木園を訪ねました。



組ひもの携帯ストラップを作る利用者

かしの木園の利用者の一日を教えてください。

かしの木園を利用できるのは18歳からで、現在23人の方が通っておられます。茨木市外からも来られています。

利用者は、午前9時15分までに登園し、朝礼・体操・ランニングの後、作業に入ります。市内の業者から持ち込まれる組み立てなどの軽作業、自主生産作業といって、ストラップやキーホルダーに付ける人形や組ひもの製作、木片を動物などにかたどって色を付け、裏にマグネットを付ける作業などを行います。昼食の後、午後1時から作業を再開。午後3時に終了します。途中、休憩を10~15分挟み、午後3時30分からミーティングなどをして、午後4時に自宅へと戻ります。

春と秋には、神戸や京都など1時間程度で行ける場所に電車を使って出かける社会体験をします。また、1年に4回、かしの木園と万博記念公園を歩いて往復したり、太陽の里ともしび園の利用者と交流したりしています。



組ひもの携帯ストラップ



かわいい動物の紙止め

利用者へのサポートや今後の取り組みなどをお聞かせください。

利用者が集団生活を通して社会性を高めることができ、日常生活に必要な知識を体得して、社会的に自立できるようにサポートをしていきたいと思っています。

朝夕や食事時のあいさつ、来園者などへのあいさつ、「ありがとう」など人間関係が円滑になるような言葉かけ、連絡や報告をすることなどを目指します。また、毎日の作業を経験する中で、道具の使い方や作業手順を会得していきます。市内の事業所などでも職場実習の体験を積みみます。

利用者は支援学校高等部などを経て、ここで6年間、自立に向けてさまざまなことを学びます。卒園生は約130人を数えます。しかし、就職状況は必ずしも明るいとは言えません。

平成17年(2005年)10月に成立した障害者自立支援法に基づき、新たな制度体系が変わっていく中で、一人でも多くの利用者の皆さんが就職・就労を目指せるように、さまざまな取り組みを考えていきたいと思っています。



業者依頼の作業をする利用者

利用者の皆さんの作業を見学させていただきました。皆さん、一生懸命で丁寧に、しかし、手慣れた様子で、写真立ての周りに飾りを付けたり、組ひもの携帯ストラップなどを作っておられました。どれもカラフルでとてもかわいく作られていました。これらは茨木市の農業祭や地域のバザー、市民会館内に常設されているレインボーショップなどで販売されています。ぜひ一度ご覧になってください。

茨木市立かしの木園

〒567-0031 茨木市春日1-15-22
TEL 626-5910・5912
FAX 626-5912